

令和4年10月31日

三朝町議会議長 吉田 道明 様

産業民生常任委員会委員長 松原 成利

産業民生常任委員会所管事務調査報告書

三朝町産業民生常任委員会として所管の事務調査を実施したので、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 日 令和4年10月4日（火）～6日（木）
- 2 調査地 茨城県大洗町（10月4日）、宮城県南三陸町（10月5日）
- 3 調査項目

【大洗町】 海を活かした観光振興に関する事項

- ・町の観光振興のコンセプトと町づくりの計画及び現状
- ・新しい観光拠点施設「うみまちテラス」について
- ・観光振興における町と観光協会との役割分担
- ・健康福祉センター「ゆっくら健康館」の目的、利用状況
- ・特色ある町内観光施設等の見学

【南三陸町】 東日本大震災からの復興・新しい町づくりに関する事項

- ・震災の教訓を活かした新しい町づくり計画、実施の状況
- ・復興までの様々な、住民支援や産業振興の諸施策
- ・新しい町の様子、南三陸311メモリアル、震災復興祈念公園

- 4 調査報告 別紙のとおり

大洗町出席者 飯田英樹議長、関清一副町長、海老澤督課長 ほか

南三陸町出席者 佐藤町長、菅原副議長、男澤議会事務局長 ほか

産業民生常任委員会 視察報告書

日 時 : 令和4年10月4日(火)～6日(木)
場 所 : 茨城県大洗町
: 宮城県南三陸町
視察内容 : 海を活かした観光振興に関する事項
東日本大震災からの復興・新しい町づくりに関する事項

調査した議員

: 松原 成利・小椋 泰志・山口 博・松原 茂隆・能見 貞明
吉村美穂子

調査報告 :

大洗町 海を活かした観光振興に関する事項

大洗町は、茨城県太平洋沿岸のほぼ中央に位置する町で、面積 23.89 ㎢、人口 15,715 人の海に面した観光保養の地である。サメの飼育種類数日本一の水族館「アクアワールド」や「神磯の鳥居」など多くの観光資源に恵まれ年間約 450 万人の観光客が訪れる茨城県内随一の観光地である。

最初は大洗町の観光事業の取組みについて説明を受けた。大洗サンビーチ海水浴場をはじめ県の水族館である「アクアワールド」や「神磯の鳥居」、民間施設の「かねふくめんたいパーク」、漁業協同組合直営の「かあちゃんの店」など豊かな観光資源が隣接しており、関東圏からの交通アクセスにも恵まれている。さらに、平成24年よりガールズ&パンツァーとコラボしたイベントなど開催しており、コロナ禍で観光客数も半減しているが、徐々に回復してきている。

新しい観光拠点施設「うみまちテラス」は、令和2年9月にオープンし大洗駅に隣接した観光案内施設で、レンタサイクルの貸出しやお土産販売等を行っているが、観光協会に事業委託しており、今後の事業展開が期待されている。

健康福祉センター「ゆっくら健康館」は、町健康増進課により管理運営されている。福祉部門・保健部門・健康増進部門で構成されており観光客も利用できる複合施設であるが、施設運営費は1億円以上の赤字になっており運営方法に対して課題もある。

【所感】

会議室での説明だけでなく、観光施設等にも案内いただき現場の状況が確認できたことは良かった。平日ではあったが、それぞれの観光施設には多くの車や人が訪れており県内随一の観光地ということも納得できた。コンパクトな町内

の中に海側を中心に県・町・民間の観光施設が集中するとともに、広い駐車面積を有しており多くの観光客を受け入れる体制が整っていた。また、海産物を活かした飲食店も展開されており、ガールズ&パンツァーやあんこう祭りなどソフト面での取り組みも併せて、地域の特徴を活かした積極的な事業展開がなされていた。本町においても地域資源を活かしながら、行政だけでなく民間等の活力導入による観光振興の参考になると思われる。

南三陸町 東日本大震災からの復興・新しい町づくりに関する事項

南三陸町は、宮城県北東部に位置し、東は太平洋に面しリアス式海岸特有の風光を有する三陸復興国立公園の一角を形成している。面積は 163.40 ㎢、人口は 12,038 人である。

役場庁舎での説明では、佐藤町長に出席いただき説明を受けることができた。

平成 23 年に発生した東日本大震災から 11 年が経ち、壊滅的な被害からの復旧・復興が進んでいる。大震災での人的被害は死者 620 人、行方不明者 211 人。建物被害は半壊以上が 3,321 戸と全体の約 62%を占めた。人口も大震災前と比較して 29%の減少となった。このため、地域コミュニティを維持し、自立し、持続的に発展していくためにもインフラ整備と積極的な人口減少対策が必要となった。

大震災の教訓を踏まえて、どのような災害に遭遇しても命が守られ、将来にわたって安全で安心して暮らし続けることができる町を目指して、「なりわいの場所は様々でも、住まいは高台に」を基本姿勢に様々なインフラ整備が進められた。これにより、住宅造成や公共施設である学校・公民館・図書館、医療・福祉施設など高台への移転造成はほぼ完了した。また、産業については、主要産業である漁業の復興に向けて地方卸売市場やふ化場の整備をはじめ、商工業の復活のため「さんさん商店街」が本格オープンするなど着実に復興が進んでいる。こうしたインフラ整備や財政支援は国の援助があつてできたものであるが、復興にあたって、国の制度設定が追い付かないこともあつた。また、マンパワーが不足し町民の気持ちをどう上げていくのかが課題であつたが、地方公共団体やボランティア活動などの人的支援をはじめ、復興市を開催するなど地元の若手を中心になってがんばってくれたことが大きかったようだ。

【所感】

大震災からの復興に直接陣頭指揮を執ってこられた佐藤町長から直接お話を伺うことができ、復興事業の大変さが十分に伝わってきた。説明の後、「震災復興祈念公園」や「南三陸 311 メモリアル」などの新しい施設も見学したが、大

震災の教訓を忘れず将来にわたって発展していこうという町の姿勢が施設から見て取れた。また、高台から町内を見渡すと点在する高台に集落や公共施設らしき建物が多くみられ、インフラ整備が相当進んでいると感じた。今後は、産業の復興と人口減少対策などに力を入れていくとのことだが、復興・新しい町づくりの先進町としてその取組みに注目していきたい。

終わりに、訪問した茨城県大洗町と宮城県南三陸町の多数の皆様には、全面的な協力を頂き調査が実施できたことに対し、関係各位に改めて感謝の意を表し結びとしたい。

以上ご報告申し上げます。

産業民生常任委員会
副委員長 小椋 泰志